

精神保健福祉センター 所報

令和4年度

鹿児島県精神保健福祉センター

巻頭言

令和4年度の鹿児島県精神保健福祉センター所報が完成しましたので、ここにご報告いたします。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症にウクライナ情勢を契機とした原材料やエネルギー等の価格高騰に、円安の進行がさらなる拍車をかけ、我が国の経済や人々の生活に大きな影響が及ぼされた1年でした。このような状況を背景に、我が国の自殺者は依然として毎年2万人を超える水準で推移し、男性が大きな割合を占める状況が続き、女性も増加し、小中高生は過去最多の水準となったため、国は新たな自殺対策大綱では「子ども・若者の自殺対策の更なる推進・強化」「女性に対する支援の強化」「地域自殺対策の取組強化」「総合的な自殺対策の更なる推進・強化」を今後取り組むべき施策としました。さらに、鹿児島県の自殺の状況は深刻であり、令和4年の人口動態統計による鹿児島県の自殺者数は315人（男性226人、女性89人）で、自殺死亡率（人口10万対）は20.3で全国ワースト4位でした。

当センターの業務の普及啓発や技術援助・教育研修において、自殺対策や依存症対策、思春期精神保健福祉、高次脳機能障害などの研修会ではオンライン開催が多くを占めましたが、感染予防対策に配慮しながら参集形式で開催したものもありました。思春期相談や依存症相談では本人だけでなく家族からの相談も多く、家族の不安を軽減できるように援助することで事態が好転したり、適切な関係機関につなげられたりできるように努めました。調査研究では国立精神神経医療研究センター作成の「薬物依存症をもつ家族を対象とした心理教育プログラム」の効果について、アンケート調査に協力しています。関係団体の育成として家族会や患者会等の支援では、感染予防しながら実施しました。精神医療審査会では、年々増加する審査件数に対応しています。自立支援医療費及び精神障害者保健福祉手帳の交付は遅滞なく進めています。高次脳機能障害者支援センター及び自殺予防情報センターでは相談、研修会、家族会の支援などを行っています。

令和4年度は現状の問題を解決するために取り組むべき課題を見定める年となりました。今後も当センターの業務に関しまして関係各位の皆様の益々のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年10月

鹿児島県精神保健福祉センター

所長 春日井 基文

目 次

巻頭言

I 概要

- 1. 沿革・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2. 組織，職員及び施設概要・・・・・・・・ 1

II 事業実績

- 1. 普及啓発・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- 2. 技術援助・教育研修・・・・・・・・ 2
- 3. 精神保健福祉相談・・・・・・・・ 8
- 4. 思春期精神保健対策事業・・・・・・・・ 1 1
- 5. 依存症対策関連事業・・・・・・・・ 1 1
- 6. 調査研究・・・・・・・・・・・・・・・・ 1 3
- 7. 関係団体の育成・・・・・・・・ 1 3
- 8. 精神医療審査会の審査に関する事務・・・・・・・・ 1 4
- 9. 自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務・ 1 5
- 10. 高次脳機能障害者支援センター・・・・・・・・ 1 8
- 11. 自殺予防情報センター・・・・・・・・ 1 9

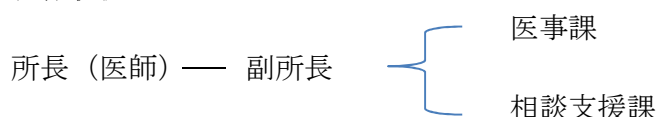
I 概要

1. 沿革

- ・昭和 42 年 4 月 「精神衛生センター」として発足
- ・昭和 63 年 7 月 精神保健法の施行に伴い、「精神保健センター」に改称
- ・平成 7 年 7 月 精神保健法の改正に伴い、「精神保健福祉センター」に改称
- ・平成 14 年 4 月 精神保健福祉法の改正に伴い、精神医療審査会事務及び、通院医療費公費負担・精神障害者保健福祉手帳判定業務を開始
- ・平成 20 年 9 月 「高次脳機能障害者支援センター」設置
- ・平成 21 年 9 月 「自殺予防情報センター」設置
- ・平成 23 年 3 月 現在地（ハートピアかごしま 2 階）に移転
- ・平成 29 年 9 月 「依存症に関する相談の拠点」設置

2. 組織、職員及び施設概要 (R 4.4.1 現在)

(1) 組織状況



(2) 職種別職員数

職種	精神科医師	事務	保健師	心理	計	会計年度 任用職員
人数	1	7	4	1	13	4

*事務 務：うち 2 人はハートピアかごしま総務課職員兼務

*会計年度任用職員：高次脳機能障害者支援員 1 人，自殺対策調整員 1 人，補助事務員 2 人

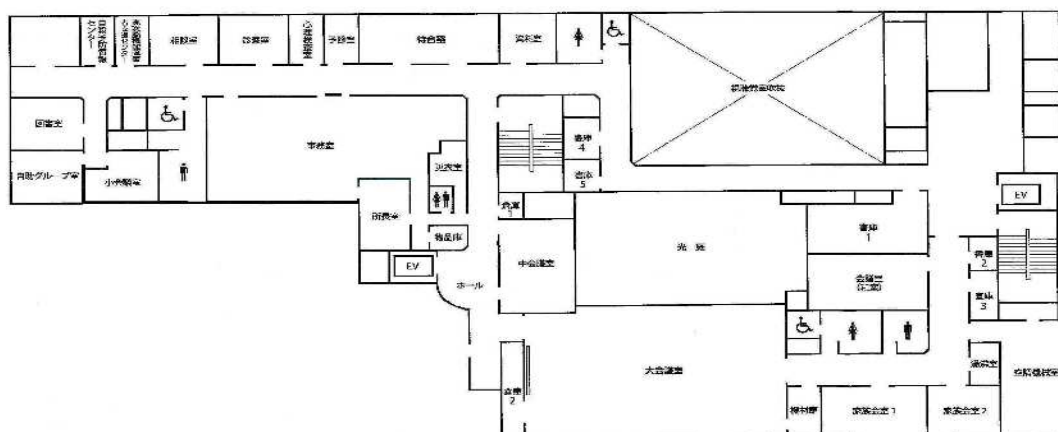
*非常勤職員：精神医療審査会委員 29 人

自立支援医療費（精神通院）及び精神障害者保健福祉手帳判定会委員 4 人

(3) 施設概要

①所在地：鹿児島市小野一丁目 1 番 1 号（ハートピアかごしま 2 階）

②平面図



Ⅱ 事業実績

1. 普及啓発

一般住民に対して精神保健福祉や精神障害に関する知識について普及啓発を行うとともに、保健所及び市町村が行う普及啓発活動に対して協力及び援助を行っている。

(1) 普及啓発

内 容	実施数(回)	参加人数(人)
依存症家族教室	20	82
依存症回復支援研修会	1	189
心の健康を考えるつどい (鹿児島県精神保健福祉協議会主催/YouTube配信)	1	109
計	22	380

(2) リーフレットの作成・配布

	内 容	配 布 先
1	「お酒・薬物・ギャンブルなどのことで悩んでいませんか？」リーフレット作成	警察署を含む運転免許更新窓口のある機関、自動車学校などの関係機関

2. 技術援助・教育研修

地域精神保健福祉活動を推進するため、保健所、市町村及び関係機関に対し、技術援助や研修を行っている。

(1) 技術援助

(単位：件)

項 目	老人精神保健	社会復帰	アルコール	薬物	ギャンブル	思春期	心の健康づくり	ひきこもり	自殺関連	犯罪被害	災害	高次脳機能障害	その他	計	電話
実施件数対象 機関・施設	0	37	23	8	18	22	27	4	16	2	1	0	116	274	69
保健所	0	1	4	0	2	3	5	0	4	0	0	0	11	30	16
市町村	0	4	0	0	0	2	3	1	4	0	1	0	4	19	12
医療施設	0	2	4	1	1	3	0	0	0	0	0	0	17	28	12
その他	0	30	15	7	15	14	19	3	8	2	0	0	84	197	29
合 計	0	37	23	8	18	22	27	4	16	2	1	0	116	274	69

(注) 実施件数は、技術援助を行った会議や研修会等の回数であり、一回の会議や研修会等で複数の対象機関や施設に技術援助を行うことがあるため、対象機関や施設の合計と実施件数は必ずしも一致しない。

(2) 職員の派遣及び関連会議等への出席状況

① 保健所等

依 頼 機 関	内 容	従事者
県地域振興局・支庁保健福祉環境部（保健所）	精神保健福祉担当者会議	所長
	屋久島地区精神保健福祉相談（屋久島保健所）	所長
	精神障害者家族相互支援推進事業家族支援教室（名瀬保健所）	心理士
	保健所長会	所長
	南薩地域自殺対策連絡研修会	所長
鹿児島市	自殺予防対策委員会	課長
知名町	県政出前セミナー	所長

② 県部局等

依 頼 機 関	内 容	従事者
総務事務センター健康管理係	職員健康審査会	所長
	試し出勤に係る調整会議	所長
	試し出勤後産業医面接	所長
	試し出勤終了前産業医面接	所長
	心の健康づくり専門部会	所長
	メンタルヘルスマネジメント実践研修会	所長
	メンタル不調者支援に関する検討会	所長
人事委員会	障害者雇用に関する研修会	所長
人事課	ハラスメント防止等に関する研修会	所長
高齢者生き生き推進課	高齢者虐待防止推進会議	所長
	認知症疾患医療センター候補選定委員会	所長
	認知症総合支援対策促進協議会	所長
障害福祉課	ギャンブル依存症対策推進計画策定委員会	所長，課長，心理士
	アルコール健康障害対策推進協議会	所長，心理士
	てんかん治療医療連携協議会	所長
	精神科病院実地指導，指導	所長
	精神科病院実地審査・実地指導打合せ	所長
	措置入院3か月，4か月診察	所長
	精神科医療救急システム連絡調整委員会	所長
	D P A T運営委員会	所長
	県障害者自立支援協議会	課長
	障害者福祉大会における表彰審査委員会	所長
	ギャンブル対策推進計画庁内会議	課長，心理士
	ギャンブル対策推進協議会	所長
	発達障害者支援地域連絡協議会	所長
	障害者雇用支援連絡協議会	所長
	精神科救急医療電話相談窓口従事者研修会	所長，課長，課員
	障害者自立厚生等知事表彰審査委員会	所長

	精神保健福祉従事者研修会	所長, 課長, 課員
	障害者地域移行・地域定着担当者会議	課長
	医療観察法制度運営連絡協議会	所長
保健医療福祉課	鹿児島県公衆衛生学会	所長
	新型コロナウイルス感染症調整本部医療体制の整備に係る会議（精神班）	所長
薬務課	薬物乱用対策推進地方本部会議	所長
社会福祉課	生活保護による精神疾患入院要否意見書審査	所長
社会福祉課	生活保護法に基づく指定医療機関に対する個別指導の実施	所長
男女共同参画室	かごしま犯罪被害者支援センター理事会	所長
	児童扶養手当及び特別児童扶養手当判定	所長
子ども家庭課	こども総合療育センター連絡協議会	所長
こども総合療育センター	子ども虐待防止ネットワーク会議	所長
県立短期大学	衛生委員会	所長
県立始良病院	始良病院倫理委員会	所長
	医療観察病棟倫理会議	所長
	県警健康審査会	所長
鹿児島県警察本部	ストレスチェック結果に基づく医師面接指導	所長
	試し出勤に係る医師面接指導	所長
県立始良病院	始良病院倫理委員会	所長
	医療観察法倫理委員会	所長
長崎県福祉保健部福祉課	九州地方依存症対策ネットワーク協議会	所長, 心理士

③ 教育庁等

依 頼 機 関	内 容	従事者
義務教育課	いじめ問題対策連絡協議会	所長
教職員課	指導が不適切な教員に係る審査委員会	所長
総合教育センター	子供に関する相談機関の合同相談会 「心のふれあい相談」	心理士
教育庁	県教育支援委員会	所長

④ その他の関係機関

依 頼 機 関	内 容	従事者
始良郡医師会	認定産業医研修会	所長
県医師会	産業医研修会	所長
県地域生活定着支援センター	県地域生活定着支援センター関係機関連絡会議	課長
かごしま子ども・ 若者総合相談センター	実務者連絡会議	心理士
	連絡協議会	課長
	ひきこもり支援関係者のための研修会	心理士
鹿児島県障害者職業センター	発達障害者雇用支援連絡協議会	所長
	発達障害者等就労支援連絡協議会	所長
	障害者雇用支援連絡協議会	所長

	職員研修	所長
	希死念慮のある方への対応について講義	所長
鹿児島保護観察所	医療観察制度運営連絡協議会	課長（所長代理）
	依存症問題を抱える者の家族を対象とした家族会	心理士
障害者就労・生活支援センター	おおすみ障害者就労・生活支援センター連絡会議	支援員
	南薩障害者就労・生活支援センター連絡会議	支援員
県社会福祉協議会	新任生活保護担当職員研修	所長
	生活困窮者自立支援事業担当職員研修会	心理士
いのちの電話協会	鹿児島いのちの電話公開講座	所長
国立障害者リハビリテーションセンター	高次脳機能障害全国連絡協議会	保健師，支援員
県精神保健福祉連合会（NPO法人かせいれん）	かせいれん総代会	所長，課長
	友愛フェスティバル	所長，課長，課員
アディクション問題研究会	アディクション問題研究会	所長，課長，心理士
県多重債務対策協議会	借金・債務に関する無料相談（心の相談）	課長
九州財務局鹿児島財務事務所	借金と心の無料相談会	心理士
鹿児島労働局	就職氷河期世代活躍支援かごしまプラットフォーム会議	所長
地域包括支援センター（伊敷台）	高次脳機能障害者の検討会	支援員
日本精神科病院協会	災害精神保健医療担当者向け研修会	所長
	D P A T L I V E 研修会	所長
	D P A T 統括者研修	所長
鹿児島高次脳機能研究会	鹿児島高次脳機能研究会世話人会	所長
	鹿児島高次脳機能研究会	所長，課長，支援員
	就職氷河期世代活動支援かごしまプラットフォーム会議	所長
全国精神保健福祉センター長会	全国精神保健福祉センター長会	所長
鹿児島大学	鹿児島大学医学部臨床実習	所長
	九州神経学会学会実行委員会キックオフミーティング	所長
	鹿児島精神神経学会	所長
精神保健福祉連合会	精神保健福祉連合会	所長
九州精神保健福祉協議会	九州精神保健福祉協議会理事会	所長
鹿児島県選手学校協会	鹿児島県専修学校教職員研修会	所長
	メンタルヘルスファーストエイドエイダー認定研修	所長
産業保健総合支援センター	産業保健総合支援センター運営協議会	所長

（３）教育研修

①精神保健福祉業務従事者研修会

実施日 （会場）	内 容	参加機関 （人数）
令和４年 ５月２７日	１ 講話 「鹿児島県の精神保健福祉における現状及び課題と相談支援」 講師：春日井 基文 氏 （鹿児島県精神保健福祉センター 所長） ２ 取組報告 （１）ひきこもり地域支援センターの活動について 藤原 奈美 氏（子ども・若者総合センター長）	保健所，市町村

	(2) ひきこもり地域支援センターの活動について 福 蘭 翔 氏(子ども・若者総合センターコーディネーター) (3) ひきこもり家族の会について 小田 直巳 技術主査(鹿児島県精神保健福祉センター)	
--	--	--

②高次脳機能障害者支援に関する研修会

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和4年 11月17日	【高次脳機能障害支援圏域研修会：北薩圏域】 1 講話「精神障害者保健福祉手帳申請時申請等に係る診断書作成の要点」 講師 春日井 基文 氏 (鹿児島県精神保健福祉センター 所長) 2 講話「高次脳機能障害の診断とリハビリテーション」 講師 衛藤 誠二 氏 (鹿児島大学大学院医歯科総合研究科リハビリテーション医学 准教授) 3 ネットワーク連絡会：事例検討 ＊研修会とネットワーク連絡会を同日に実施	医療機関， 相談支援事業所，障害福祉事業所，介護保険事業所，行政等 計 47 名
令和4年 12月12日 (ハートピアかごしま)	【高次脳機能障害理解のための講演会】 1 講話「失語症・高次脳機能障害の理解と支援について」 講師 松尾 康弘 氏 (鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚療法学科) 2 家族による体験発表 「失語症の夫とともに歩いた10年～そしてこれから～」 城戸 育美 氏	家族，当事者，医療福祉職，一般県民 計 43 名
令和4年 10月3日	【高次脳機能障害者支援のための専門家研修】 1 講話 「高次脳機能障害の理解と対応」 講師 米田 孝一 氏(鹿児島大学法文学部教授) 2 体験発表 「高次脳機能障害の夫とともに。 日常～非日常～そして少し変化した日常へ」 発表者 野角 伸子 氏	医療機関， 相談支援事業所，障害福祉事業所，介護保険事業所，行政等 計 123 名
令和4年 12月6日	【高次脳機能障害者支援のための情報交換会】 活動報告 社会福祉事業部次長 安藤 靖浩 氏 高次脳機能障害コーディネーター 久野 浩史 氏 (別府リハビリテーションセンター及び障害者支援施設くにじ>)	医療機関， 相談支援事業所，障害福祉事業所，介護保険事業所，行政等 計 11 名

③自殺対策に関する研修会（自殺予防情報センター事業含む）

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和4年 10月5日 (オンライン開催)	【依存症回復支援・自殺対策関係者（若年層支援）研修会】 講演 「思春期の自傷行為と市販薬乱用」 講師：松本 俊彦 氏 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 部長薬物依存症センター長)	保健所，市町村，医療機関等 計 189 名

令和4年 11月15日 (ハートピアかごしま及びオンライン開催)	【自殺対策関係者研修会】 1 講演「自殺総合対策大綱の見直しを踏まえた地域自殺対策計画の策定・見直し～自殺対策の更なる推進に向けて～」 講師 新海 浩之 氏 (いのち支える自殺対策推進センター いのち支える自治体コンシェルジュ 四国・九州・沖縄ブロック) 2 講演「自殺に傾いた方や身近な人を自死で亡くされた方への支援」 講師 菅沼 舞 氏 (いのち支える自殺対策推進センター いのち支える自治体コンシェルジュ 四国・九州・沖縄ブロック) 3 自殺対策取組事例の紹介・情報提供 ・南九州市：自殺対策推進協議会～推進協議会と本部会の連携～ ・南さつま市：心の健康づくり研修会事業 ・川薩保健所：川薩保健所における自殺対策 ・障害福祉課：鹿児島県自殺対策計画の改訂と地域自殺対策強化交付金の留意点について ・自殺予防情報センター：こころ・つむぎの会について	保健所，市町村 等 計 62 名 うちWeb参加44名
--	---	---------------------------------------

④依存症対策に関する研修会

実施日 (会場)	内 容	参加機関 (人数)
令和4年 10月5日 (オンライン開催)	【依存症回復支援・自殺対策関係者（若年層支援）研修会】 講演 「思春期の自傷行為と市販薬乱用」 講師：松本 俊彦 氏 (国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所 薬物依存研究部 部長薬物依存症センター長)	保健所，市町村，医療機関，相談機関等 計 189 名

⑤思春期精神保健福祉に関する研修会

日時等	内 容	参加予定機関
令和5年 2月2日 (オンライン開催)	【思春期精神保健福祉従事者研修会】 講演「愛着の問題を抱える子どもたちへの支援」 講師 島田 尚子 氏 (鹿児島大学病院 神経科精神科 特任教授)	保健所，市町村，教育機関，相談機関 等 計 228 名

(4) 学生等に対する教育・実習

対 象	内 容	回数(回)	対象者数 (人)
鹿児島大学 医学部	学外臨床実習（医学科）等	9	1 1 6
	臨床神経精神医学講義 (保健学科：作業療法士専攻)	1	2 0
鹿児島国際大学・鹿児島大学， 鹿児島純心大学，志学館大学	精神保健福祉援助実習並びに 公認心理師実習	2	7 0
計		1 2	2 0 6

3. 精神保健福祉相談

心の健康相談や精神医療に係る相談，アルコール，薬物，思春期，認知症に関する相談など精神保健福祉全般の相談を実施している。来所相談は予約制で，新規相談は毎週木曜日の午前中に開設。また，専門相談として，思春期相談（年15回），年10回依存症相談（年10回），薬物相談（年12回）を行っている。

（1）来所相談・・・センター医師および専門医師が対応した面接相談

①来所相談件数推移

（単位：件）

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
新規相談（実）	105	75	62
継続相談（実）	30	21	14
計	135	96	76
（相談延べ件数）	（328）	（229）	（169）

新規相談は本年度初回，継続相談は前年度からの継続

②新規相談者の内訳

②－1 年齢別相談者人数（新規）

（単位：人）

年齢	～9	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70以上	不明	計
男	0	8	5	5	8	4	0	0	—	30
女	0	13	6	6	3	2	0	2	—	32
計	0	21	11	11	11	6	0	2	—	62

②－2 保健所別相談者数

保健所	人	保健所	人	保健所	人
鹿児島市	48	川薩	1	西之表	0
指宿	0	大口	1	屋久島	0
加世田	1	姶良	4	名瀬	0
伊集院	2	志布志	1	徳之島	0
出水	1	鹿屋	1	不詳・県外	2

②－3 相談の処置別人数（新規）

処置	人数（人）
継続	2
他機関紹介	13
終結	47
計	62

③相談理由別人数(新規)

(単位:人)

相談理由	人数	相談理由	人数
気分が不安定	7	おかしい言動	1
眠れない	0	飲酒に伴う問題	3
食事がとれない	0	薬物依存の問題	0
不安・恐怖・こだわりが強い	9	ギャンブルに伴う問題	5
学校に行けない, 学校に適応できない	4	家族・近隣との問題	4
職場に行けない, 職場に適応できない	6	その他行動上の問題	7
家から外に出ることができない	0	性格・対人関係の問題	8
もの忘れ	1	その他	7
計			62

④新規相談および延べ相談者の相談内容別件数

(単位:件)

	老人 精神	社会 復帰	アルコ ール関 連問題	薬物	ギャン ブル・	思春期	心の 健康	うつ・ うつ状	その他	合 計
新規	1	0	3	0	5	21	12	6	14	62
延べ	5	1	30	12	11	31	31	35	56	212

(2) 保健師, 心理士が対応した来所面接相談

(単位:件)

	老人 精神	社会 復帰	アルコ ール関 連問題	薬物	ギャン ブル・ ゲーム	思春期	心の 健康	うつ・ うつ状 態	その他	合 計
対応 数	4	0	4	12	6	8	8	0	1	43

(3) 電話相談

①電話相談延べ件数推移

(単位:件)

年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度
延べ件数	3,337	4,025	3,010

②相談内容

相談内容		人数(人)
精神科疾患に関すること	病気・治療・薬のこと	169
	うつ・うつ状態	39
	社会復帰・福祉制度等	48
	人間関係・日常生活	1,274
	家族等の対応	64
	その他	58

認知症・介護に関すること		3 3
アディクション関連問題	アルコール	7 9
	シンナー・薬物	2 3
	ギャンブル	7 3
	ゲーム	
	過食・拒食等	1 1
	その他	4 0
思春期問題に関すること	不登校・ひきこもり	3 6
	学校生活（いじめ・友人関係等）に関すること	1 6
	情緒不安定	1 7
	身体的不調（頭痛・腹痛・倦怠感）	6
	性格・行動	4 3
	発育・発達に関すること	9
	非行・反社会的行動	1
	その他	1 3
心の健康に関すること	言動が奇異	1 0
	気分の落ち込み・うつ状態	9 8
	希死念慮	1 3
	不安・恐怖・こだわり	3 1
	家族関係の悩み・ストレス	1 5 1
	職場関係の悩み・ストレス	6 6
	その他人間関係の悩み・ストレス	4 4
	ひきこもり	2 6
	DVに関すること	3
	病院・相談機関等の情報	5 0
	その他	6 9
その他		4 1 0
計		3, 0 2 3

（４）新型コロナウイルスに関する相談

- ① 専用電話での相談業務は、令和２年７月～令和３年３月まで実施。
以降は（３）電話相談で対応。

② 宿泊施設における心のケア相談

新型コロナウイルス感染症の感染者増加により、軽症者の宿泊療養が開始になった７月から実施している。宿泊療養者全員に K6 日本語版（注）を記入してもらい、５点以上の入所者に内線電話により相談対応をしている。

（単位：件）

実件数	延べ件数	鹿児島市内に開設された宿泊療養所４か所に週１回ずつ訪問
5 2 5	5 2 9	

（注）K6 日本語版：国民生活基礎調査で用いられるうつ・不安障害のスクリーニング

4. 思春期精神保健対策事業

精神保健福祉相談のなかでも「特定相談」に指定され、知識の普及や相談指導等思春期における個別相談や研修会を実施している。

(1) 思春期相談（再掲）

年15回（毎月1～2回）専門医による相談を実施するとともに、心理士・保健師による来所相談、電話相談を行っている。

（単位：人）

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
来所相談	35	35	31
電話相談	144	151	141

①来所者年齢内訳

（単位：人）

小学生	中学生	高校生	中卒・高校中退	高卒・大学生	計
4	12	10	0	5	31

②来所者主訴内訳

（単位：人）

不登校・ひきこもり	情緒不安定	身体的不調	性格・行動	非行・反社会的行動	その他	計
5	11	0	10	0	5	31

5. 依存症対策関連事業

平成29年9月に、精神保健福祉センターに依存症相談拠点を設置し、相談員による依存症専門相談窓口を開設した。平成30年4月からは、専門医による依存症専門相談窓口を開設するとともに依存症家族教室を開始している。

(1) 依存症相談（再掲）

年10回専門医による相談を実施するとともに、心理士・保健師による来所相談、および電話相談を実施している。

（単位：人）

	専門医	相談員	電話相談	計
アルコール	2	4	79	85
薬物	0	12	23	35
ギャンブル	5	6	73	84
その他	0	0	40	40

※ 薬物依存症については、令和元年7月から Voice Bridge Project に参加し継続的な支援を行っている。

(2) 依存症家族教室（平成 30 年度から開催）

令和 2 年度より、①アルコール・薬物依存症家族教室 ②ギャンブル等依存症家族教室に分け、本人や家族の回復に必要な知識や関わり方を学び、家族同士の交流を通じて支え合うことを目的に開催している。

①アルコール・薬物依存症家族教室

月 1 回×6 回を 1 クールとし、前期・後期に分けて開催した

(内容及び参加人数)

(単位：人)

テーマ	開催月	参加家族人数
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	4 月	2
上手なコミュニケーションで本人を治療につなげる	5 月	2
長期的な回復を支え、再発・再使用に備える	6 月	1
家族のセルフケア	7 月	6
コミュニケーションスキルの学習	8 月	中止
振り返りと今後の目標	9 月	中止
コミュニケーションスキルの学習・振り返りと今後の目標	10 月	3
前期 合計（実人数）		7
前期 合計（延べ人数）		14
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	11 月	6
上手なコミュニケーションで本人を治療につなげる	12 月	5
長期的な回復を支え、再発・再使用に備える	1 月	5
家族のセルフケア	2 月	5
コミュニケーションスキルの学習・振り返りと今後の目標	3 月	3
前期 合計（実人数）		9
前期 合計（延べ人数）		24

※8, 9 月は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止。

※月 1 回×6 回を 1 クールとし、前期・後期に分けて開催する予定であったが、中止した回もあったため、前期 5 回、後期 5 回でテーマを再構成して開催した。

②ギャンブル等依存症家族教室

月 1 回×6 回を 1 クールとし、前期・後期に分けて開催した。

(内容及び参加人数)

(単位：人)

テーマ	開催月	参加家族人数
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	4 月	9
コミュニケーションスキルの学習	5 月	9
借金問題への対応について	6 月	5
長期的な回復を支える	7 月	5
家族のセルフケア	8 月	中止
振り返りと今後の目標	9 月	中止
家族のセルフケア、振り返りと今後の目標	10 月	3

前期 合計（実人数）		1 0
前期 合計（延べ人数）		3 1
オリエンテーション・ギャンブル等依存症とは	1 1 月	2
コミュニケーションスキルの学習	1 2 月	3
借金問題への対応について	1 月	3
長期的な回復を支える	2 月	3
家族のセルフケア、振り返りと今後の目標	3 月	2
前期 合計（実人数）		5
前期 合計（延べ人数）		1 3

※8, 9月は新型コロナウイルス感染症予防対策のため中止。

※月1回×6回を1クールとし、前期・後期に分けて開催する予定であったが、中止した回もあったため、前期5回、後期5回でテーマを再構成して開催した。

6. 調査研究

地域精神保健福祉活動を推進するために以下の調査研究を行った。

- 依存症対策総合支援事業における精神保健福祉センターの取り組み報告及び今後の課題について(資料を参照)

また、依存症家族教室で使用している国立精神神経医療研究センター作成の「薬物依存症をもつ家族を対象とした心理教育プログラム」の効果について、アンケート調査に協力した。

7. 関係団体の育成

地域精神保健福祉の向上を図るため、家族会、患者会等の支援を行っている。

(単位：回)

対象	内容	回数
鹿児島県精神保健福祉会連合会	理事会	1
鹿児島県断酒友の会	ミーティング	1 0
アルコール依存症家族の会	ミーティング	0
ひきこもり家族の会	ミーティング	1 0
セルフヘルプネットかごしま	例会	1 1
こころ・つむぎの会	例会（分かち合いの会）	2
高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島	家族交流会	3
計		3 7

(1) 鹿児島県精神保健福祉会連合会（略称 NPO法人かせいれん）

昭和59年9月に鹿児島県精神障害者家族会連合会として発足し、平成21年6月に解散して鹿児島県精神保健福祉会連合会として活動を一本化。現在、9の地域家族会と1つの病院家族会、6施設で活動している。例年は、友愛フェスティバル等を行っているが、令和3年度は中止となった。

(2) かがしまデイケア連絡協議会

平成 24 年 5 月に精神科デイケアを実施している医療機関の職員が、デイケアについて研究・協議し、知識・技術を習得することを目的に設立。センター職員は、顧問、アドバイザーとして参加しているが、令和 3 年度はコロナ禍で開催できなかった。

(3) 鹿児島県断酒友の会

昭和 46 年に発足し、毎月 1 回例会を行い、お互いの断酒を支え合うとともに、家族ぐるみの交流も行っている。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染防止のため中止した月もあった。

(4) アルコール依存症家族の会

平成 7 年度から開催していた「アルコール依存症家族教室」の参加者を中心に結成。平成 13 年度から家族ミーティングを主体とした家族の会となり、毎月 1 回実施している。令和 3 年度は新型コロナウイルス感染防止のためとメンバーの高齢化に伴い休会したい旨の申し出があった。電話相談には応じるとしている。

(5) セルフヘルプネットかごしま

平成 12 年度に地域活動支援センター「ソーバーハウス」と共催で「セルフヘルプフォーラム」を開催。平成 15 年度からは当事者の代表者と支援者で構成される「セルフヘルプネットかごしま」として活動を開始した。年 1 回のフォーラムと毎月 1 回定例会を行っている。現在当事者団体は 4、支援者団体は 7。

(6) ひきこもり家族の会

平成 15 年度から 3 か年計画で「ひきこもり家族教室」を開催し、平成 19 年度からは「ひきこもり家族の会」として開催していたが、平成 29 年 4 月からは自助グループとして毎月 1 回活動を継続している。

(7) こころつむぎの会

平成 20 年 9 月に開催した「自殺対策シンポジウム I N 鹿児島」で自死遺族から分かち合いの会を望む声があがり、同年 12 月に「分かち合いの会」準備会を開催し家族、助言者を交えて検討をし、平成 21 年 8 月に分かち合いの会「こころ つむぎの会」をスタートさせた。偶数月に開催している。

(8) 高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島

平成 16 年 9 月に 6 家族で、脳外傷「ぷらむ」鹿児島を設立。平成 19 年 4 月に高次脳機能障害「ぷらむ」鹿児島と名称を変更。家族・当事者交流会や「脳トレ教室」、講演会の開催、会報誌の発行等を行っている。

8. 精神医療審査会の審査に関する事務

精神科病院に入院中の者や家族等からの退院や処遇改善の請求について、その請求が適正であるか、また、医療保護入院の届出、措置入院者及び医療保護入院者に係る定期病状報告書について、その入院の必要性を審査している。また、審査会専用の電話を設置し、退院等請求者に対応している。

(1) 審査会開催状況

合議体審査会…27回(9回×3合議体)

全体会……………1回(新型コロナウイルス感染症予防対策のためオンライン方式で開催)

(2) 退院等請求の審査状況推移

(単位:件)

年度	措置入院者 定期病状報告書	医療保護 入院者入院届	医療保護入院者 定期病状報告書	計	退院・処遇 改善請求件数	退院・処遇 改善請求 審査件数
H30	14	2,448	1,607	4,069	131	90
R1	17	2,541	1,562	4,120	128	78
R2	20	2,484	1,578	4,082	150	68
R3	27	2,583	1,650	4,260	123	69
R4	19	2,657	1,614	4,290	132	66

9. 自立支援医療費(精神通院)及び精神障害者保健福祉手帳の判定交付事務

自立支援医療費(精神通院)の支給認定及び精神障害者保健福祉手帳の申請に対する審査を行い、受給者証及び手帳の交付を行っている。

(1) 自立支援医療費(精神通院)

① 自立支援医療費(精神通院)申請承認件数推移(有効期限切れを除く)

(単位:件)

	令和2年度	令和3年度	令和4年度
申請件数	28,706	27,457	28,152
承認件数	28,697	27,453	28,151

②疾患名・年齢別自立支援受給者証交付者数（令和４年度）
（有効期限切れを除く）

（単位：人）

疾患名		総数	自立支援受給者証交付者数				
			20歳未満	20歳以上 40歳未満	40歳以上 65歳未満	65歳以上 75歳未満	75歳以上
F0	症状性を含む器質性精神障害	1,027	2	63	314	277	371
F1	F10 アルコール使用による精神及び行動の障害	649	0	40	347	201	61
	覚せい剤及び覚せい剤を除く精神作用物質使用による精神及び行動の障害	56	0	8	43	4	1
F2	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	9,498	39	1,539	5,630	1,861	429
F3	気分(感情)障害	10,410	56	2,314	5,860	1,736	444
F4	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	1,762	64	634	843	173	48
F5	生理的障害及び身体的要因に関連した行動症候群	41	1	20	18	0	2
F6	成人のパーソナリティ及び行動の障害	146	2	60	70	12	2
F7	精神遅滞[知的障害]	353	10	135	174	30	4
F8	心理的発達の障害	880	160	527	185	7	1
F9	小児期及び青年期に通常発症する行動及び情緒の障害及び特定不能の精神障害	554	115	305	131	1	2
F99	特定不能の精神障害	3	0	1	1	1	0
G40	てんかん	2,772	302	964	1,118	327	61
計		28,151	751	6,610	14,734	4,630	1,426

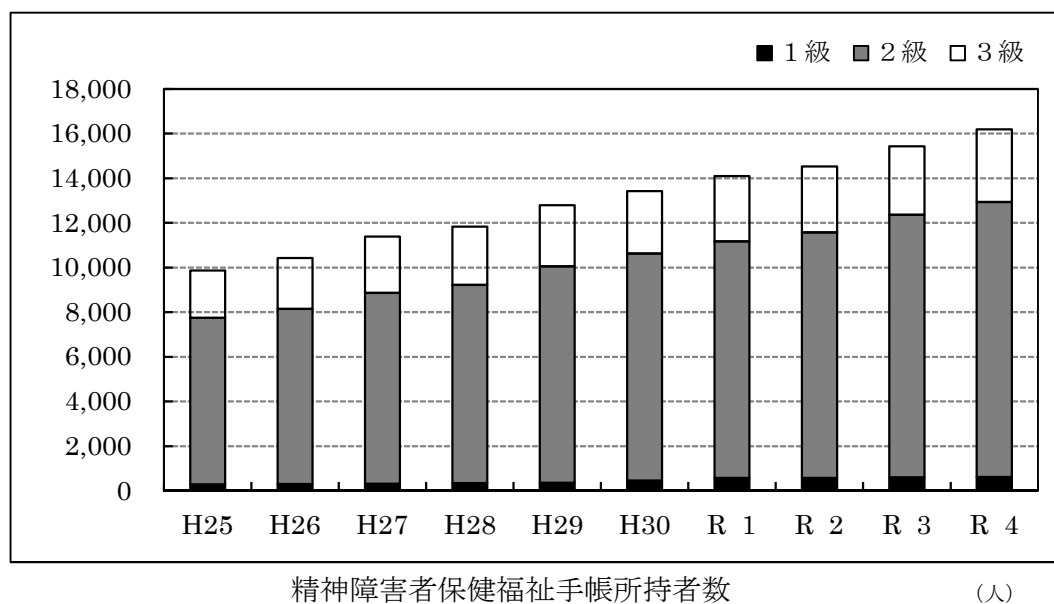
(2) 精神障害者保健福祉手帳所持者数推移

(単位：人，%)

年度	1 級	2 級	3 級	計
H 2 5	2 8 7	7, 2 1 1	2, 0 4 8	9, 5 4 6
	3.0	75.5	21.5	
H 2 6	3 0 4	7, 8 4 8	2, 2 8 0	1 0, 4 3 2
	2.9	75.2	21.9	
H 2 7	3 2 3	8, 5 3 8	2, 5 2 9	1 1, 3 9 0
	2.8	75.0	22.2	
H 2 8	3 4 3	8, 8 8 0	2, 6 0 7	1 1, 8 3 0
	2.9	75.1	22.0	
H 2 9	3 6 4	9, 6 9 7	2, 7 2 6	1 2, 7 8 7
	2.9	75.8	21.3	
H 3 0	4 5 8	1 0, 1 6 3	2, 8 0 4	1 3, 4 2 5
	3.4	75.7	20.9	
R 1	5 7 1	1 0, 5 9 9	2, 9 2 7	1 4, 0 9 7
	4.1	75.2	20.7	
R 2	5 7 4	1 0, 9 9 6	2, 9 6 2	1 4, 5 3 2
	3.9	75.7	20.4	
R 3	6 1 0	1 1, 7 5 0	3, 0 6 6	1 5, 4 2 6
	3.9	76.2	19.9	
R 4	6 2 3	1 2, 3 1 2	3, 2 5 1	1 6, 1 8 6
	3.8	76.1	20.1	

※手帳の有効期限切れを除く，各年度末の所持者数を記載

※上段は所持者数，下段は構成比



10. 高次脳機能障害者支援センター

平成 20 年 9 月高次脳機能障害者への支援拠点機関として、精神保健福祉センター内に設置され、高次脳機能障害者支援員が高次脳機能障害者に対する専門的な相談支援、関係機関との地域支援ネットワークの充実、関係者への研修等を行っている。平成 30 年には協力医療機関の指定を開始し、令和 5 年 8 月現在、34 医療機関ある。

(1) 来所相談

(来所相談延べ件数推移)

(単位：件)

①

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
延べ件数	9 2	7 2	5 5	4 2

(2) 電話相談

(電話相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和元年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
延べ件数	4 3 0	4 6 2	4 7 1	4 2 2

(3) 研修会の開催（詳細は、教育研修参照）

- 専門家研修・・・協力病院や高次脳機能障害者に関わる関係者などを対象にセンターと保健医療福祉圏域毎に開催している。
- 一般研修・・・一般県民に高次脳機能障害を理解してもらうために実施。
- ぷらむ鹿児島との共催による、子どもをもつ家族の交流会に参加。

(4) センターだよりの作成

センターの活動実績やトピックス等のまとめとして年 1 回作成し、協力医療機関や関係機関等に配布し、周知・広報に役立てている。

(5) リーフレットの配布

支援者同士の連携につながり、適切な支援を受ける手助けになるよう鹿児島県高次脳機能障害者連携支援ノート「わたしのノート」を配布。

11. 自殺予防情報センター

平成 21 年自殺対策を推進するため、精神保健福祉センター内に設置され、自殺対策調整員が自殺に関する情報収集・分析、情報提供や自殺対策に関わる団体・人材の育成、自死遺族等の支援を行っている。

(1) 来所相談

(来所相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
延べ件数	4	6	2

(2) 電話相談

(電話相談延べ件数推移)

(単位：件)

年度	令和 2 年度	令和 3 年度	令和 4 年度
延べ件数	1, 0 6 3	1, 1 4 9	6 6 0

(3) 研修会の開催 (詳細は、教育研修参照)

本県が重点的に自殺対策を講じる必要がある課題は、「高齢者」, 「生活困窮者」, 「被雇用者・勤め人」に加えて、死因の第 1 位が自殺となっている「子ども・若者」や自殺未遂者などの「ハイリスク者」となっている。

○「若年層支援者向け研修会」を開催

内容①講話「思春期の自傷行為と市販薬乱用」

○「自殺対策関係者向け研修会」を開催

内容①講話「自殺総合対策大綱の見直しを踏まえた地域自殺対策計画の策定・見直し～自殺対策の更なる推進に向けて～」

内容②講話「自殺に傾いた方や身近な人を自死で亡くされた方への支援」

内容③取組紹介・情報提供

- ・南九州市：自殺対策推進協議会～推進協議会と本部会の連携～
- ・南さつま市：心の健康づくり研修会事業
- ・川薩保健所：川薩保健所における自殺対策
- ・障害福祉課：鹿児島県自殺対策計画の改訂と地域自殺対策強化交付金の留意点について
- ・自殺予防情報センター：こころ・つむぎの会について